

女性雑誌における「フェムテック」「フェムケア」の 語られ方

—『an・an』の分析を通して—

林 綾乃

本稿の目的は、近年、女性の性に関する健康問題を解決する「フェムテック」および「フェムケア」が注目されている現状を分析するにあたって、どのような価値観や規範が日本の女性たちにおける「フェムテック」「フェムケア」の普及を支えているのか、雑誌分析を通して明らかにすることである。そして、それを通して「フェムテック」「フェムケア」市場における女性たちの身体に関する主体性や自己決定の在り方について検討した。分析対象は、女性雑誌『an・an』の「フェムテック」「フェムケア」を含む女性の性に関する健康を取り扱っている記事を対象とし、分析期間は、2016 年 4 月から 2023 年 4 月までの 7 年間とした。

第 1 章では、日本社会における女性の性に関する諸問題と女性活躍に関する法整備の変遷を概観し、近年、政府が「フェムテック推進」を掲げるに至った背景と先行研究で指摘されている問題点を示した。日本は女性の「性と生殖に関する健康と権利」に対する社会的な認識と施策が不十分な状態であるにもかかわらず、政府がフェムテックに注目している背景には、女性の権利を保障するという目的よりも、女性の労働力向上や少子化対策、経済の活性化という政治的な狙いがあることを指摘した。

第 2 章では、本稿の分析対象である『an・an』の歴史とフェミニズム的な言説について述べた。ウーマンリブが誕生した 1970 年代の創刊当時から男性中心的な社会や女性の性の抑圧へ抵抗し、消費文化の中で日本女性の「主体性」と性との向き合い方に大きな影響を及ぼしてきたことを示した。

第 3 章の『an・an』の分析では、「フェムテック」「フェムケア」など女性の性に関する話題について、どのようなテーマが重点的に取り上げられているのか、またそのテーマについてどのような語られ方をしているのか分析した。分析の結果、2020 年に「フェムテック」や「フェムケア」という言葉が誌面

に登場し始めた頃から、「フェムテック」等の商品紹介とともに女性の性をオープンに語る記事が増加していた。2022 年開始の長期連載「Femcare File」では、生理や妊娠に関する記事の中で「自分らしさ」という言葉が強調されていたり、セルフケアを通して「自分をいたわる」というセルフラブ的な文脈のフレーズが散見されたりなど、「フェムケア」を語るうえで女性の QOL 向上と「主体的」なケアが重視されていた。また、ホルモンバランスに関する記事の中では低用量ピルについて触れられている記事が多数確認され、ピルによって自身のホルモンバランスをコントロールすることが推奨されていた。「Femcare File」で見られた大きな変化は、「生理」と「妊娠・出産」などの記事が急増したことである。「生理」については、働くうえでの生理の悩みを解消することや、生理中でもパフォーマンスを維持することが特に焦点化されていた。「妊娠・出産」については、将来の妊孕力のために今、妊娠適齢期である読者が備えるべきことが重点的に述べられていた。以上の二点に関する情報やメッセージを提示することが『an・an』が「フェムテック」「フェムケア」を語るうえで特に重視しているアジェンダといえる。

第 4 章では、第 3 章での分析結果を踏まえて、女性が主体的に「フェムテック」「フェムケア」を選択して身体をコントロールすることと、女性の身体を取り巻く政治性の問題について考察した。『an・an』が語ってきた「フェムテック」「フェムケア」は、テクノロジーを含めた身体セルフケアを通して QOL を向上させ、女性たちに「自由」「解放」「自分らしさ」をもたらすという価値がある。その一方で意図せず、ジェンダー化された身体規範の強化をもたらす可能性を持つ。この「フェムテック」「フェムケア」が持つ両義性について考察を述べた。